

｜ 平成 21 年度 ｜

びわ湖ホール

劇場サポーター活動記録集



滋賀県立芸術劇場

びわ湖ホール

BIWAKO HALL CENTER FOR THE PERFORMING ARTS.SHIGA

は　じ　め　に

観劇やコンサートに行くときにドキドキするのは誰にも共通していることです。ドキドキは、どんな素晴らしいものが見れるのか、聴けるのかという期待ですが、不安もあります。本当に良い催しなのかどうか、自分で理解できるだろうか、劇場やホールの作法のようなものがあるのではないか。

こういう時に、誰か先輩のような人がいてガイド役をしてくれば、ずいぶん劇場に近づきやすくなります。びわ湖ホール劇場サポーターは、こうしたガイド役も務めていただいています。ひとたび劇場に来て、客席で濃密な芸術体験をしてみれば、もう今度はその人がガイド役になれるでしょう。

開館前の1996（平成8）年度から始まった劇場サポーターの経験者は、今年度までで488人となります。これだけの人がガイド役をすれば、びわ湖ホールをめぐるネットワークもどんどん広がっていくことでしょう。

昨年（2009年）は、国政の場で政権交代があり、その後の事業仕分けは文化芸術にも大きな影響をもたらしていますし、劇場を対象とした新たな法律の制定を含め、国の文化政策に大きな変化が起きる可能性もあります。

劇場そして文化芸術の発展を考えたとき、それを推し進めるのは、芸術家や専門家以上に、発言し意思表示する観客です。びわ湖ホールの劇場サポーターの皆さんが中心となって、より多くの方が芸術体験を深め、その体験の意義を様々な場所で発言し、行動し、文化芸術の新しい姿がかたちづくられることを期待しています。

平成22年（2010年）3月

財団法人びわ湖ホール

理事長・館長 井 上 建 夫

目 次

平成 21 年度 劇場サポーター研修の概要

第 1 回 舞台芸術基礎講座〈舞台見学&主催事業説明〉	1
-----------------------------------	---

第 2 回 舞台芸術基礎講座

〈秋の音楽祭&ダンス・ワークショップ編〉	2
----------------------------	---

第 3 回 舞台芸術基礎講座〈オペラ編〉	3
----------------------------	---

舞台稽古見学・鑑賞研修・その他	4
-----------------------	---

平成 21 年度劇場サポーター自主活動の概要	6
------------------------------	---

平成 21 年度びわ湖ホール劇場サポーター運営要綱	9
---------------------------------	---

劇場サポーターの声	11
-----------------	----

平成21年度劇場サポーター研修の概要

第1回 舞台芸術基礎講座〈舞台見学&主催事業説明〉

日 時 平成21年4月26日(日) 13:30～15:00

場 所 びわ湖ホール 大ホール・研修室

■ あいさつ・びわ湖ホール制作のオペラ公演について

(財)びわ湖ホール 井 上 建 夫 理事長・館長

■ 平成21年度のびわ湖ホール自主事業計画について説明

■ びわ湖ホール施設・舞台裏見学(大ホール)



第2回 舞台芸術基礎講座

〈秋の音楽祭&ダンス・ワークショップ編〉

日 時 平成21年8月2日(日) 13:00～15:30

場 所 びわ湖ホール 研修室・リハーサル室

■「びわ湖大津 秋の音楽祭の楽しみ方」

お 話：井 上 建 夫 (財)びわ湖ホール理事長・館長)

田 上 朋 子・奥 田 もも子 (財)びわ湖ホール事業部職員)

■ ダンス・ワークショップ

講 師：北 村 成 美 氏 (ダンサー・振付家)

講義内容：前半の「びわ湖大津 秋の音楽祭の楽しみ方」では、平成21年度秋にびわ湖ホール
その他大津地域の各所で開催した音楽祭の公演について、見どころ・聴きどころなど
のお話がありました。

後半のダンス・ワークショップでは、「秋の音楽祭」中に開催のダンス公演「くるみ割
り(風)人形と二十日(ぐらい)ねずみの戦争☆キャー!!」振付をいただく北村成美氏
によるワークショップを開催しました。普段生活しているなかでは気づかない身体表
現の可能性や、身体の動きに意識を集中すること、身体を動かす楽しさなどを体験
していただきました。



第3回 舞台芸術基礎講座〈オペラ編〉

日 時 平成22年1月10日(日) 14:00～16:00

場 所 びわ湖ホール 研修室

■ 講 義

標 題：「びわ湖ホールプロデュースオペラの楽しみ方♪」
～「ラ・ボエーム」の上演にちなんで～

講 師：日下部 吉 彦 氏（音楽評論家）

講義内容：「オペラは演出の時代」をテーマに、びわ湖ホールの大イベントである「プロデュースオペラ」について、これまで上演してきた演目をふりかえりながら特色や楽しみ方のレクチャーがありました。また、様々な公演の映像をまじえながらオペラ演出の変遷や時代背景、魅力についてお話しいただきました。



◎ 舞台稽古見学・鑑賞研修・その他

劇場サポーターオリエンテーション

日 時 平成21年3月22日(日) 13:30～

場 所 びわ湖ホール 研修室・中ホール

- 職員よりの挨拶、劇場サポーター制度の概要および活動についての説明
- びわ湖ホール施設見学(中ホール)

『わくわく☆ドキドキ♥劇場探検ツアー』ゲネプロ見学

日 時 平成21年8月21日(金) 20:00～

場 所 びわ湖ホール 大ホール

- ゲネプロの見学

ミュージカル「天翔ける風に」 関連企画への参加

○ 亀山郁夫講演会 ～ドフトエフスキーの「罪と罰」を読み解く～

日 時 平成21年8月29日(土) 14:00～

場 所 びわ湖ホール 中ホール

- ロシア文学のブームを巻き起こしたロシア文学者・亀山郁夫氏(東京外国語大学長)による講演会
- ※ 一般の方向けの企画ですが、サポーターも参加しました。

沼尻竜典オペラセレクション 歌劇『ルル』関連企画への参加

○ プレトーク・マチネ

日 時 平成21年9月5日(土) 14:00～

場 所 びわ湖ホール 中ホール

- 指揮の沼尻竜典 芸術監督らによる公演の観どころ、聴きどころの解説とキャストによる演奏。

※ 一般の方向けの企画ですが、サポーターも参加しました。

○ ゲネプロ見学

日 時 平成21年10月2日(金) 14:00～

場 所 びわ湖ホール 大ホール

- ゲネプロの見学

『くるみ割り(風) 人形と二十日(ぐらい) ねずみの 戦争☆キャー!!』公演 稽古見学

日 時 平成21年9月12日(土)

場 所 びわ湖ホール リハーサル室

- 稽古見学

マリインスキー・バレエ クラス・レッスン見学

日 時 平成21年11月28日(土) 12:30～

場 所 びわ湖ホール 大ホール

- マリインスキー・バレエ「眠れる森の美女」公演開催当日、本番直前のマリインスキー・バレエのクラス・レッスンを見学。

びわ湖ホールプロデュースオペラ 歌劇『ラ・ボエーム』関連企画への参加

○ プレトーク・マチネ

日 時 平成22年2月20日(土) 14:00～

場 所 びわ湖ホール 中ホール

- 指揮の沼尻竜典 芸術監督らによる公演の観どころ、聴きどころの解説とキャストによる演奏。

○ ゲネプロ見学

日 時 平成22年3月11日(木)・12日(金) 14:00～

場 所 びわ湖ホール 大ホール

- ゲネプロの見学

○ オペラ・ワークショップ

日 時 平成22年3月14日(日) 10:00～

場 所 びわ湖ホール 大ホール

- 演出のアンドレアス・ホモキ氏による舞台装置や舞台衣装の解説と舞台見学。

※ プレトーク・マチネ、オペラ・ワークショップは一般の方向けの企画ですが、サポーターも参加しました。

◎ 舞台芸術 公演鑑賞研修

様々な舞台芸術に触れていただくため、びわ湖ホールの主催公演を「オペラ・オーケストラ編」「演劇・ダンス編」「室内楽・びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演編」の3ジャンルに分け、各編より1公演ずつ、年間計3公演を観ていただく「公演鑑賞研修」を実施しました。

平成21年度劇場サポーター自主活動の概要

1. サポーターの集い・ミニ部会（ジャンル別）の開催

- (1) 4月 4日(土) ハイキング “桜満開 浪速のまちあるき”
- (2) 4月 26日(日) シンフォニー・器楽分科会
“名作映画の中で聴く《楽しむ》クラシック音楽の名曲！”
- (3) 5月 17日(日) オペラ・声楽分科会
“歌劇「トゥーランドット」県民合唱に参加して大ホール舞台上で歌った歓び！
／タリス・スコラーズ演奏会とア・カペラのポリフォニー合唱曲の魅力！”
- (4) 6月 28日(日) 演劇・古典芸能分科会 “イケメン狂言師 野村萬斎大好き！”
懇親会 びわ湖ホール内「レストラン オペラ」にて
- (5) 7月 26日(日) バレエ・ダンス分科会 “グラン・パ・ド・ドゥを見てみよう！！！”
- (6) 8月 2日(日) 演劇・古典芸能分科会 “これが宝塚の男役だ！”
- (7) 8月 30日(日) オペラ・声楽分科会 “歌劇「ルル」を楽しむプライマリー講座”
- (8) 9月 26日(土) ハイキング “比叡山登山”
- (8) 10月 10日(土)・11日(日) 自主交流会番外編 “大津祭りを楽しもう！”
- (10) 11月 29日(日) 演劇・古典芸能分科会
“出演したからこそわかる舞台芸術の魅力！”
／日本舞踊とオーケストラのコラボで1世紀 宝塚歌劇講座 No.6”
- (11) 12月 12日(土) オペラ・声楽分科会 “歌劇「ラ・ボエーム」を勉強しよう！”
クリスマスパーティー びわ湖ホール内「レストラン オペラ」にて
- (12) 1月 10日(日) オペラ・声楽分科会 “今年こそびわ湖ホールでワーグナー歌劇を観たい！”
- (13) 2月 28日(日) オペラ・声楽分科会 “バロックオペラをご紹介します！！”
- (14) 3月 27日(土) 自主交流会番外編第2回
“とことこ・ぶらぶら・おおつまちなか まち歩き！”

2. サポーター通信の発行

サポーター同士のコミュニケーションを図り、びわ湖ホールをはじめとする、あらゆる舞台芸術の面白さを外部に向けて発信することを目的とした「サポーター通信」は、1998年10月から1999年6月までに創刊準備号、創刊準備第2号、創刊準備第3号。そして2000年には名称を“Harmonia”（ハルモニア）として昨年までに創刊号～第23号、今年は第24号～第25号を発行した。

- (1) 6月 “Harmonia” 第24号
- (2) 12月 “Harmonia” 第25号

3. サポーターメーリングリスト

サポーター同士の連絡・交流用として、eメールによるメーリングリストに、希望するサポーターを登録。公演の感想やミニレクチャーなどに幅広く活用されている。

4. ビデオライブラリー

サポーター個人から寄贈された200本余の「オペラ公演ビデオテープ」を、サポーターの誰もが自由に借り出して観ることができるようにしている。

平成21年度びわ湖ホール劇場サポーター運営要綱

1. 趣 旨

地域や職場、友人など、人のネットワークを生かして、びわ湖ホールとそこで上演される舞台芸術を生活に身近なものと感じる愛好者の輪を広げることを目的に、びわ湖ホール劇場サポーター（以下「劇場サポーター」という）を設置します。

2. 劇場サポーターの役割

- (1) 劇場サポーターは、ボランティアとして、舞台芸術に関する情報やびわ湖ホールの公演情報を地域や職場等に届けていただき、チケットの販売促進につなげていただきます。
- (2) 舞台芸術に関する地域の情報や、びわ湖ホールでの公演の評価および提案を随時提供していただきます。
- (3) びわ湖ホールは、劇場サポーターの自主的な活動を尊重し、劇場サポーター間の交流を図ります。
- (4) 劇場サポーターは、びわ湖ホールの公演や地域の情報だけでなく、劇場サポーターの運営に関し提案することができます。

3. 劇場サポーターの定員と登録

公募により選ばれた方を劇場サポーターとして登録し、定員は100人、登録期間は3年間とします。任期終了後、1回に限り再応募することができます。（最長任期6年）

4. 平成21年度活動

- (1) 舞台芸術に関する研修の受講
 - ・基礎講座
 - ・ワークショップ
 - ・鑑賞研修
 - ・舞台稽古の見学、プレトーク等の関連事業への参加
- (2) 舞台芸術の公演鑑賞研修

劇場サポーターの舞台芸術に対する理解を深めるため、びわ湖ホール主催公演をジャンルごとに選択し、鑑賞していただきます。
- (3) 舞台芸術情報やびわ湖ホールにおける公演情報の地域や職場、友人等への広報
 - ・口コミによるPR活動
 - ・チケット予約の受付
- (4) 舞台芸術に関する地域の情報、およびびわ湖ホールにおける公演に関する友人などの感想や反応等の報告
 - ・劇場サポーターレポートの提出
 - ・活動記録集用の原稿提出

(5) 自主活動

- ・交流会、レクチャー会などの開催
- ・劇場サポーター通信 (Harmonia) の発行

5. 劇場サポーターの内訳

【期 別】

12期	17名
13期	29名
14期	47名

【年齢・性別】

男 性	23名
女 性	70名
20 代	6名
30 代	17名
40 代	13名
50 代	32名
60 代～	25名

【住所別】

●滋賀県	60名
大 津 市	32名
草 津 市	12名
守 山 市	4名
野 洲 市	1名
湖 南 市	1名
甲 賀 市	1名
東近江市	2名
彦 根 市	2名
米 原 市	1名
長 浜 市	2名
高 島 市	2名
●京都府	21名
●大阪府	4名
●兵庫県	3名
●奈良県	2名
●愛知県	1名
●岐阜県	1名
●三重県	1名

計 93名

劇場サポーターの声

びわ湖ホール劇場サポーター活動レポート

2010年2月7日

第12期 岡崎英子

サポーター12期生としての活動はこの3月で終わります。振り返って印象に残ることはやはりホールの予算削減や運営に係わる3月事件でした。たくさんのサポーターの方達と交流がこの事件をきっかけに親しくなれたこと、また自主交流会で沢山の情報や、皆さんの人柄に触れる事が出来少し違った文化の有り様を感じることが出来また楽しむことが出来ました。あまり積極的に周知活動をして居ない私ですが、、、私がいそいそとホールに出かけ楽しむことでこの地で得た友人などが時には一緒に鑑賞、またチケットの購入を依頼され、カップルで、友人と足を運び楽しんでいただく事がささやかですが出来ました。別に持ち上げる気は有りませんが、、、このサポーター制度が余り押し付けがましく無く緩やかで有ったこと、、、が何よりもよかったです。挫折しなくてすみしました。

印象に残っている公演ではなんといっても“サロメ”、受け入れることは出来ずがっかり“ルル”は不快感は残りましたが、、ソリスト、オケの出来栄えには満足して、、ゲネプロと本番も鑑賞できる事はびわ湖ホールで初体験、事前に自主交流会で予備知識が得られたこと等、数倍楽しみました。又タリススコラーズの澄み渡った綺麗な声に魅了され、アンサンブル・ラロの演奏に引き込まれ楽しい時間を過ごすことが出来ました。いまさらどうにも出来ない事ながら、、、引越した所がもう少しホールに近いところを、、、と残念。 頑張って好みの演奏会には出かけ楽しめます。

～活動記録集～

びわ湖ホール劇場サポーター 1 2 期 川村美佳

ふとしたきっかけで、ダンスを見るため足を運んだびわ湖ホールでたまたま見つけたサポーター募集から始まりました。

元々、いろいろな舞台を見るのが好きで、アルバイトで運営側に加わったりしたりした経験もあり、舞台のおもしろさを発信するサポーター？是非やってみたいと思い、何が出るだろうと自分の可能性にもわくわくしながら始めました。それから、あっという間に3年、そしてまだ何かし足りないを更新して3年、結局たいしたことも出来ずに終わってしまいます…。

サポーターには、音楽好きオペラ好きの方が多く、興味深い話をいろいろ聞くことが出来、いずれ私もいつばい見て意見を交わせたらいいな～と思っている間に、変わり映えせず過ぎてしまいました。でも、そんな中でも事前学習をしてのオペラ鑑賞は、何か毎日の生活にはない密やかな楽しみを味わえました。自力では出来ない楽しみ方を教えていただきました。バレエも歌舞伎もそうでした。

いや、サポーターでなくとも楽しめる勉強会やプレトーク等々、本当にホールがされている様々な工夫は素晴らしいと思います。一つの公演への楽しみが何倍にもなるのですから…。

そんな刺激も、日常の忙しさにすぐに紛れてしまうのですが、研修や交流会に行くと、にわか「通」になれ、そして次は何に行こうと楽しみがわいてきます。

公演に来ると、いつも頂けるオリジナルパンフレットも読み応えあり、公演前の楽しみの一つでもあります。

思い返すと、友人知人を誘い、びわ湖ホールへ足を運んだ数々の公演が浮かんできます。すっかり親しんだホールなので、もちろん、これからも変わらず公演チェックをして行きたいと思っています。研修会などで味わった楽しみ方を自分でも発信できるよう、色々な楽しみ方を見つけていこうと思います。隠れサポーターとして今後も続けるつもりです。

長い間ありがとうございました。

わたしは、1929年、昭和4年生まれで、80歳になる。

今、当、びわ湖ホールのサポーター・京都芸術センターのボランティア・京都市と京都府図書館で目の不自由な方々への対面音読ボランティア・立命館大学国際平和ミュージアムのガイドも兼ねている。

一方、自分の生きた証しのつもりで、兀兀と戯曲も書いている。

その為の調べ物をして、色々の資料や書籍を読むと、我ながら、この歳になって、知らない事の多いのに今更ながら驚く。

今は「サライ」紙に連載の渡辺保さんの「私家版演劇史」

「演劇界」に連載の河竹登志夫さんの「かぶき曼陀羅」

同じく「演劇界」連載の渡辺保さんの「私の——ある劇評家の告白 歌舞伎遍歴」

それに現在、続刊中の大笹吉雄さんの「新日本現代演劇史」全4巻別巻1の内、3巻まで読了。遡って、白水社から明治以降の「日本現代演劇史」の既刊があると知って「第1巻」から「第5巻」まで読了（必要と思う箇所をメモ）

「新……」の後、1巻と補巻。旧の6巻から8巻までが未了。

1巻がほぼ800ページで、メモをしながら読み終えると平均1週間かかっている。

肩は凝るし、腰は痛むし、30代で一度経験している椎間板ヘルニア（ギックリ腰）が又起こらないかと自分の体を騙し、賺ししての読書。

誰から求められる訳でも無く、急かされる訳でも無いのだが、早くこれを終えて、次のモノに掛かりたいと心が急ぐ。我ながら、生き急いでいるのだなぁ…と思う。

明治以降の演劇史を読むと

歌舞伎に九代目市川団十郎・五代目尾上菊五郎・二代目市川左団次あり。新演劇を創ろうとした福地桜痴・坪内逍遙・森鷗外・林竹二らあり。オッペケベ節から始まる壮士芝居から喜多村緑郎らの新派。早稲田から発展した澤田正二郎の新国劇。

大正末期から次第に始まる思想弾圧の中での、新劇運動の数々とその離合集散。

太平洋戦争後の新劇の大衆化と現在のミュージカル・小劇場演劇の氾濫。

これらの活動・運動に関わった人々の懐かしい名前の数々。その舞台の存り様までもが脳裏に蘇って来る。

山本安英の「夕鶴」のつう。民話と現代への連綿。その他、安英のほとんどの舞台。

杉村春子の「欲望という名の電車」で、次第に廃れていく女の変化や多くの映画の場面

望月優子の「日本の悲劇」で見せた家族の崩壊の予告。

滝沢修の「戦争と運命」で見せた、新興資本家の立体像や「滝沢ブシ」の台詞術。

十五代目市村羽左衛門のイナセな舞台振りや爽やかな台詞術「直侍」「富樫」等など

六代目尾上菊五郎の写実と艶冶な舞台「藤娘」「鏡獅子」「巷談宵宮雨」等など

初代中村吉右衛門の「俊寛」「次郎左衛門」「熊谷」等など

六代目中村歌右衛門の「滝夜叉」「お軽」「八ッ橋」「絶間姫」「かさね」等など

喜多村緑郎の「お薦」「お孝」等なども思い起こしながら、「現代日本演劇史の戦中編II」のメモをちょっと見ると「岸田国士は昭和8年の築地座（田村秋子・友田恭助らの）一周年記念パンフレットに「……途中で面白くなかったら、サッサと退場して下さい。切符代が惜しかったら「キツプ代返せーッ！」と怒鳴って下さい。自分一人では羞かしいと思って左右を見回して御覧なさい。多分、同感の人達が居るでせう。お互いに顔を見合わせ、一斉に足を踏みならしてください。しかし、万一、巧いな一ツと思ったら、大きく手を叩いてください。そうすれば役者はドンドンと、本当の人間を表現するようになるでしょうから……」とあった。近頃の、詰まらない舞台、俳優の演技にも盛んに拍手を送り、その上、演劇が終わると、俳優の素顔が見たいのか、「おねだり」をするように執拗に、カーテンコールをする観客を見ていると、俳優も観客も鈍感になったモノよと思い、昭和8年の岸田国士の発言に拍手したくなる。（2010・2・11）

劇場サポーター活動記録

12期 安木聖子

サポーターになって3年たって

はじめは舞台芸術とのかかわり方がまったくわからず、「これが有名とされる〇〇か、しっかり観なければ」と身構えていた状態から3年、舞台芸術大好きな先輩サポーターのレクチャーで一つ一つの公演に興味を持てるようになり、身構えが解けて楽しみ方もわかってきました。

そこでわかってきたのですが、どうやら私の鑑賞スタイルは、オペラやオーケストラでは演奏のきばえやストーリーや演出を見るというよりも、歌声や音響がどう自分の体に響くか（涙が出るか、リラックスして寝てしまうのか、リフレッシュして活発になるのか）といった身体変化、または絶妙なタイミングでシンバルが鳴ってスカッとしたといった納得感(?)のようなもので演目を楽しんでいるようです。なので、まるで寝具や温泉のお湯の感想を言うような感覚になり、他人によさをアピールするのが難しいと悟りました。

一方で狂言やダンスなど様式美を追求しているもの、またはゴージャスでにぎやかなミュージカルは、鑑賞時に私に身体変化があまり起きないので「頭」や「目」で鑑賞できて感想が言いやすい、したがって知人も誘いやすいことがわかりました。面白い発見です。

自主交流会ではハルモニアを

自主交流会機関紙のハルモニアの編集を主に担当しました。サポーター関連の刊行物はホールからも作っていただいているので、今年度はハルモニアならではの特色を出したいなと思い、舞台芸術に詳しくないとおっしゃっている方にも投稿していただきやすい記事内容を工夫しました。投稿のみならず、自主交流会の会合にもよりたくさん参加していただける雰囲気作りができればと考えていました。表紙を描いていただいたり、編集を手伝っていただいたり、皆様、ご協力ありがとうございました。

ファンをふやす・・・

ロコミをするには自分とお友達の新密度を上げるのが一番でした。しかも自分が身体感覚で演目を楽しんでいるということがわかって思うのは、ホールのファンを増やすのも同じで、そこが気の張る場所ではない「なじみ」と、頭や言葉では表しきれない「すき」という感覚を伝えることが重要だろうということです。エキストラで出演したときも、頻繁に足を運んでなじんだし本当に楽しかったので、一気にホールや舞台への親近感がアップしたものです。他のファンの方も過去に「思わずブラボーと叫んでしまえる」感覚を衝撃として感じたのだと思います。なにかホールに通える体を使える事、合唱クラブなどが設置できればいいのにな、私は入りたいな、観客も増えるのではないかな、と思います。

＊ サポーターになったきっかけ

数年前、アナニ・アシヴィリのパレエ公演を観に行ったのが、きっかけでびわ湖ホールに足を運ぶようになりました。そしてある時、帰りの駅であった方の「サポーターになればチケットが取りやすいですよ」のお誘いでした。

＊ 活動

観客誘致のお仕事は難しいこと。私は東京～大阪間の劇場でいろんなジャンルのものを観ています。元気な時は年間100タイトル以上、今年度は体調を崩して半分位、ゆっくりのマイペースに。その時々のお話の中に、びわ湖ホールのことを入れるようにしました。最初に足を運んだ頃を思うと、ホールの知名度は随分上がっています。

20年3月の署名運動の話が来たときは驚きました。丁度忙しい時期でしたが、それでも行く先々をお願いをして、(豊田市、岐阜市、名古屋市)近所の人たちも入れ、1週間で50人分集め送りました。このときは色々な人たちの気持ちが良くわかりました。

＊ おまけ

サポーター活動レポートと公演活動レポート提出は、必須条件だと思っていたので、「漫然と舞台を見る観客ではなく、しっかりと鑑賞しなくてはいけない」という意識の芽生えがありました。しかも自分の書いた手書きのレポートは読みづらいと思い、本当に70の手習いでPCに挑戦。ワープロを使いインターネットを通じてメールを送ることを覚えました。これもサポーターになった余録です。メーリングでいろんな情報もいただけて、サポートフレンズは素晴らしいと感じています。

＊ 自主交流会……世話人の方々に感謝

研修、自主交流会は数回しか出ていませんが、いつも実り豊かなものを頂いて帰ります。比叡山ハイキング(術後養生中の私はケーブルを利用し、ガーデン・ミュージアムにて皆を待つ)は山上で合流、昼食後の同行の人たちとの語らいも良い思い出になりました。

昨年末のXマス会では、ゲームの賞品として素晴らしい「カンターテ・ドミノ」のCDを頂き、録音先のストックホルムのオスカル教会に想いを馳せました。

＊ 残念だったこと

ホール公演のオペラ「こびと」が観られなかったこと。私はその時丁度「国境なき合唱団」の一員としてウィーンにいました。JAL主催の「世界の恵まれない子供たち」の為のチャリティーコンサートです。会場はNHK新年恒例のウィーン・ニューイヤーコンサートの楽友協会。満席の当日は、聴衆の涙と、スタンディングオベーションありで感激の旅となりました。ついでにコンツェルトハウスの舞台にも立つことも叶って両劇場を探検。オペラ座で「セヴィリアの理髪師」、ウィーン少年合唱団の学校訪問、シュテファン大聖堂(モーツアルトの結婚式とお葬式をした)でのハイドンのミサコンサート、ベルベデーレ宮殿のクリムトの絵画他……「こびと」の記録映像があるなら、見たいと願っています。

“白鳥”に集う魅力的な人・ひと

—回顧と提案（次への期待を込めて）—

第12期 渡部兼治

【回顧】

びわ湖ホールとのお付き合いは9年になった。うちサポーター活動は第6・12期の6年。惹かれたのは舞台芸術だけではない。建物を「湖畔に遊ぶ2羽の白鳥」と見立て、そこに関わる人、集まる人たちに親しみを覚え続けてきた。そして知らぬ間に母校や職場とは違った自身の重要な居場所になってしまった。魅力的な人たちに囲まれたお蔭だと思う。

この間、舞台芸術のジャンルでは①オペラが急増、②バレエが現代ダンスにまで広がり、③様々な形の室内楽、曲種等が増えた。④声楽アンサンブルの大ファンにもなった。

好きな出演者、演目には感謝、感激！オペラではワークショップ、見学などで事前の学習意欲を駆り立てられたのがよかった。もう一つ、公共ホールだから採算面にこだわらず新作、新人発掘、現代ものへの取り組み、幅広い観客の動員、無料演奏会の実施 etc. これらの新鮮さ、斬新さに引き込まれた。安価な公演で超満足したことは多い。

サポーター活動の変化も著しかった。自主交流会を中心に人の輪が広がり、新しい人とOB、OGとの対話が増えた。これまでのハイキング、史跡めぐり、食べ歩きは単にそれぞれ趣味としての楽しみだけに止まらず、芸術鑑賞との両輪となる貴重な人の繋がりを強めた。“重要な居場所”と感じる背景にはこの蓄積された人間関係を除いては考えられない。

また、研修鑑賞やホールの人と接する機会の増加は、新ジャンルへの挑戦と新発見にまで増幅し、その反応がレポートに表われてきた。人・ひとへの感謝は数え切れない。

以下の【提案】は最終「サポーターの声」。(温め中アイデアはまだあるが…)

1. 玄関付近やメインロビーに「びわ湖ホール」の表示がほしい。

遠くから来た人が記念撮影をするとき、建物と「びわ湖ホール」の文字を入れるのに苦心している。折角の思い出を撮る人のために、写しやすい場所にホール名称を表示できないか。看板だけでもよい、顔くり抜きの人形パネルでもあれば子供まで喜ぶ。

2. 大・中ホールのロビーに「琵琶湖眺望図」(案内板)を設置してはどうか。

ホール・ロビーからのロケーションは国内外から訪れる人に絶賛されている。ところが、話題は比叡山ぐらいで終わっていないか。ちょっとした眺望図でもあれば話は広がり、印象も強まる。歴史を添えれば県内観光案内へと発展する。サポーター(含OB)でも歴史家に劣らぬ説明は可能、必要ならば双眼鏡を持参し、お貸ししてもよい。

3. ホール開館記念週間を設け、記録写真、使用小道具・衣裳を展示しては？

ホール開館以来11年が過ぎ、内外の評価も着実に積み重ねられてきた。この間の成果と最近分をまとめ、開館記念日前後一週間程度に記録写真、使用した小道具、衣裳などを展示してはどうか。15周年、20周年記念へと夢は膨んでいく。

4. サポーター活動活発化のためのリボン着用をしてみても如何。

近年、新旧サポーターがロビーで話し合う姿をよく見るようになった。だが、今も隣席がサポーターかどうか、声を掛けては失礼かと悩むことがある。こんなとき、カラーリボンでも付けてもらえば迷わず話が出来る。これまでに延べ300名に及ぶサポーター経験者がいるのだから、喜びや苦勞を語り合えるキッカケとなれば素晴らしいと思う。

(ご意見、ご批判、何でも歓迎します！ お茶しながらでも結構です。)

会いたい人に会えるびわ湖ホール

13期 伊藤 恵子

20歳の頃、人に勧められてドフトエフスキー＜カラマーゾフの兄弟＞を読み始めましたが、何巻もあるのに1巻でさえ読み終えられず、＜罪と罰＞は辛うじて読破しましたが。

一昨年教育テレビで、ロシア文学者の亀山郁夫さんがアニメも交えて分かりやすく解説してくださいました。やっと理解できました。

新訳がベストセラーになり一時ブームになりました。

本物に会いたい、直にお話を伺いたいと思っていたところ去年8月中ホールで講演会があり、サイン会で間近にしかもお話もできました。繊細な感じの方でした。

甘いテノールの佐野茂宏さんニューイヤー・コンサートの＜星は光ぬ＞は絶品でした。昨秋大ホールでリサイタル。かぶりつきで見、聴きました。

スミ・ジョーの澄んだソプラノ。

東京ばかりで関西に来てくれないことを嘆いていたら、今6月びわ湖ホールに。早速チケットをゲット。

待望の＜トリスタンとイゾルデ＞今秋お目見え。

西宮で聴き是非大ホールでも響かせて欲しいと願っていました。

まさに 願いはかなう

我が家から数分歩けばもうそこには「びわ湖ホール」が有る。
その地の利を生かさない法はない! と考えて当館サポーターになり、細々ながらそれでも気持ちよく活動が続けさせて頂いて早2年が過ぎようとしている。
その間音楽鑑賞などは勿論のことだが当館の施設、設備等の舞台の裏側を覗いたり舞台芸術の知識や情報を得ることもでき、サポーターによる自主交流会にも参加し、そこでも全く違う分野の興味深い話が聞けたりお互いに励ましあったりと意義深い交流を続けている。しかし、どちらかといえば未だ能動態というより受動態の感がある。

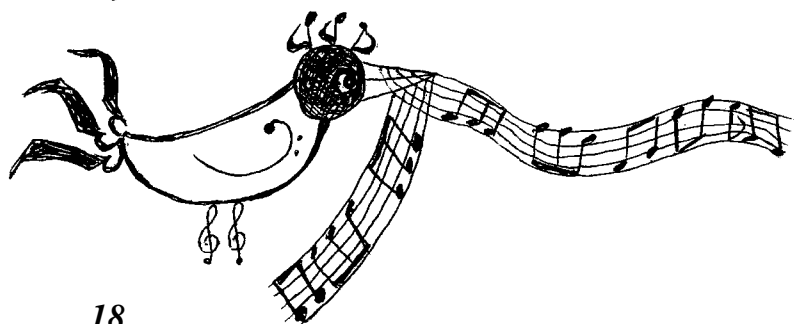
今年度はオペラ「トゥーランドット」や「ルル」を観劇し「PARK CITY」という演劇も観劇した。この劇は内容もさることながら本来の客席は幕外にあり使用されず舞台の上の高い所に客席が設えてあり、我々は階段を上がって着席し、俯瞰した。舞台全体が見渡せた。また驚いたことに各々の椅子に小さなモニターが付いていて広島街の街や舞台の様子が映し出されていたりして、今まで経験したことのない珍しい観劇の体験をした。他にも観たり聴いたりしたものはあったが上記のものはその中でも印象深かった。

また毎月送付されてくる公演案内は私が所属している様々なグループに手渡ししている。その際「興味のあるものがあったら電話してね、私、いろいろ事前勉強させてもらっているし!」と言ったり「△△はとても良い演出でこのチャンスを逃がしたら、なかなか大津では見るのが不可能かもよ」等何か一言付け足して渡すようにしている。

しかしチケットはKEIBUNで買う人もいたりしてなかなか販売促進は難しい。それでもめげずに、友達や近所の人達に事前研修で得た事を話したりする。そうすることで私の記憶もはっきりするし、相手にも喜ばれる。一石二鳥、三鳥のときもある。

また格安のチケットでの観劇の情報、めったに来滋しない人の講演会やロビーコンサートに誘ったり、時たまではあるが、当ホールのレストランで琵琶湖を眺めながらランチすることもある。

雑多で多用な日々の中でも時間をやりくりし、豊かな潤いのある生活を少しでも多くの方が味わえるよう、ほんの微力ながら働いている。
そうそう少しその兆候が現れた。友から電話で「あなたが生き生き楽しそうだから私もサポーターに応募したわ!」と伝えてきた。牛歩だが今年はどんな展開になるか皆を巻き込んでレッツスイング。



『サポーターとして思うこと』

第13期 木田 正子

立春寒波で降った雪で化粧をする山々と、びわ湖を遠望しながら、今日(3/7)は、楳谷美さんのロビーコンサート、そして、大ホールでの「運命」と「新世界」の2つの交響曲を楽しんできた。

ロビーコンサートは初めて参加したが、ホール内とはひと味違って開放感に溢れていて、演奏もさることながら雰囲気かとても良かった。子供の声も気にならず、できればコーヒー片手に聴くことができればベスト。次回は、喫茶室の方に陣どりたいと思った。

大ホールのコンサートは聴衆も超満員。とても良い表情でホールをあとにする人々に混じりながら、～この新企画は大成功～と、うれしかった。オペラの時には見られない、沼尻さんのキレイなエネルギーシユな指揮ぶりに感動した。

私はびわこホールの backstage で、人生も終盤のところでオペラの楽しさに覚醒した。今度は交響曲の豊かな世界に尊いてもらえる予感でいっぱいだったから、本当に期待通りであった。同行の友人と「せめて年に2回位はこのシリーズのコンサートを開いてほしいよね」と語り合った。

2年間のサポーター経験から感じていることは、「交響曲への招待」のような新しい企画をどんどん打ち出してほしいということだ。

友人たちに「チケットを」と云われるのが、びわこホール主催のものではなく、経文の方が多くて、悔しい思いをしているのは、私だけだろうか。

こんなに素晴らしいホールがあるのだから、経文を凌駕するような斬新な企画を心から期待している。

残り一年間となったから、サポーターとして、びわこホールをしっかりと支えていこうと思っている。

2010. 2. 7.

(3)

音楽と風景

第13期
黒崎道雄

びわ湖ホールの「ロビーコンサート」は、大変人気があります。なかでも声楽、とりわけ日本歌曲などは特に好評のようです。平日の開催が多いので、私は仕事の関係で参加できませんが、私の家内は、計画してロビーコンサートの日遊びに来た友達と一緒に必ず出かけていきます。

私は、洋楽を聴くのが中学生の時から趣味となっていました。還暦を超えた今、文部省唱歌や日本の歌曲に大変興味がわいてきました。それらの歌曲の詩には、日本の四季折々に醸し出される地域独特の景色や動植物が見事に描写され、なかにはもう見られなくなった景色が歌によって思い出され、癒されることもあります。

ところで「夏は来ぬ」という歌がありますが、この歌は、作詞佐々木信綱、作曲小山作之助により、明治29年に「新編教育唱歌集(五)」として発表されたという記載が見られます。多くの皆さんが日本のメロディーとして、何回も耳にし、口ずさんで来たことと思います。この歌はあまり知られていませんが5番まであり、その中には、日本の伝統的な初夏の風物がふんだんに謳われています。1番には「卯の花の匂う垣根」、「時鳥(ホトトギス) 早も来鳴きて」、2番には「さみだれの注ぐ山田」、「早乙女が裳袖濡らして玉苗植うる」、3番には「橘の薫る軒端」、「窓近く蛍飛び交い」、4番には「棟(オウチ) 散る川辺の宿」、「水鶏(クイナ) 声して夕月すずしき」、さらに5番には1番から4番までの風物を再度登場させています。この中の卯の花はユキノシタ科のウツギの花、棟(オウチ)はセンダン科のセンダンです。ちなみに「梅檀は双葉より芳し」のセンダンは別種で、「白壇」のこととされています。

山田での田植えの風景や、窓辺まで蛍が飛び交う風景は、日常では見られないものとなってしまいましたが、この歌に登場する樹木や野鳥は、身近な種類を取り上げているものだけに、地球温暖化による季節的変化も少なからずあるとはいうものの、今でも健在です。

このほかの歌では、「ふるさと」、「花」、「浜辺の歌」、「冬景色」、「椰子の実」などもうたっても聴いても心が安らぐ、景色を素材とした名曲です。さらに、演歌の部門でも「北国の春」などは、白樺、こぶし、水車小屋、カラマツなどの素材とともに、さびの部分での主人公のふるさとを想う感情がマッチした五感に訴える名曲であると思います。

びわ湖ホールでは、楽しいロビーコンサートの開催に加えて、明日を担う子どもたちに日本の風景をうたった音楽を通じて健全な精神を育てていくような試みを、今後とも是非すすめていただきたいと思います。私も、音楽を聴きながら、これからもこころ豊かな人生を歩んでいきたいと考えています。

最後に、私の友人で仙台市に住むランドスケープ・アーキテクトである嶋倉正明氏の水彩画「そろそろ福寿草 旧羽州街道上戸沢」を、ブログ「みちのく風景スケッチ」の写真から引用させていただきます。



なかなか、配布物を公の所に配布できなかった。重複していても有れば、直接びわ湖ホールから郵送されていて困った場合もあった。

個人的に知り合いにもっと、情報を届けようと思います。しかし、せっかく良いホールが有るにもかかわらず、文化振興において無知(失礼な言い方)な方達が多い様な気がしました。もっと、知らしめる為にはどうしたら良いのか？今後の課題かと思います。滋賀(近江・淡海)古から奈良・京都に劣らぬ文化都市であり、日本の「へそ」で有ると思います。しかし、びわ湖は知られても他の文化などは知られていません。奈良・京都は修学旅行や外国人客が多い。。。滋賀県はその通過県にすぎないのではないのでしょうか。もっと、滋賀県の良さをこれからアピールしていかなければならないと思います。

2009年度・活動報告

(13期：野坂宜正)

サポーター二年目、よくも悪くも「慣れ」てきた今年、びわ湖ホールのためにいったいどんな活動ができたか、あるいはできなかったか、最も印象的だった事柄を振り返ってみる。

・ <チラシ配布先の拡大>

前年度のチラシの配布先は、専ら近所の音楽好きのおじさん・おばさんとバレエ教室に限られていたのだが、今年度は、これに、近所のプロテスタント教会がくわわった。普段から讃美歌を歌い慣れている人々だからか、歌好き・音楽好きが多いし、チラシの配布にもきわめて寛容である。チラシ配布先としてお勧めです！お試しあれ。(そこから、合唱団関係の人々への人脈も多少広がりました)

・ <びわ湖ホール声楽アンサンブル、地域公演への参加>

藤居様より、(ほぼ)地元の米原市(旧山東町)で同アンサンブルの公演があるとのメールを頂戴し、母とともに急遽駆けつけた。「いまこそ湖北サポーターの出番」、と張り切った日であった。コンサートの内容も極めて良く、終演後、久々にコンサートというものに触れた母は、「あんまりきれいな声と歌で涙が出たわ」と語っていた。二重に良いことをしたようで、いい気分でした。

<クリスマス会等への「不参加」>

- ・ 「今年こそ分科会かパーティに参加したい」と思っていたのだが、結局、仕事の都合がつかずにまったく参加できず。湖北から大津までの物理的・心理的距離も大きい。当日は声楽アンサンブルの方々やホール関係者のみなさんともお話できたらしくて、羨ましい。来年こそは、と、またも今から意気込んでいます。

<青少年へのオペラ普及活動>

- ・ これはごく最近の話なのですが、オペラに漠然とした興味を持っているらしい近所の高校生を発掘したので、「ちょうどいい、今度大津でラ・ボエームっていうオペラがある、ぜったいいいから行って見いへんか」と誘いかけています。『ルル』よりは誘いやすい(笑)。DVDやらCDも貸して、着々と次代のオペラファンの種を撒いています。

私は近くに住んでいますので、びわ湖ホールの前はよく通っていましたが、サポーターになってからは気軽に中に入る機会が増えました。ホールの設備はとてもすばらしく、又、ホールからのびわ湖の眺めは格別です。これだけの設備と演目の内容、景観の良いびわ湖ホールは滋賀県、か全国に誇れるとても大切なものだと思います。

ホールから送られてくる基礎講座、舞台けいさくの見学、公開練習、舞台裏見学、公演研修など、今までのただの観客では絶対にできないいろいろなことを体験できました。又、サポーターで企画、運営する、自主交流会も、毎回いろいろなテーマがあり、楽しく参加させていただきました。

ホールから送られてくるチラシは、知人、友人に配ることで、十分に広められていないことは申し訳なく思っています。この様にびわ湖ホールからは、いろいろお世話になってばかりですが、今後はサポーターとして、もっとびわ湖ホールに協力できることはないものかと考えています。

サポーターになことは本当に良かったし、有意義な一年を過ごすことができました。

太古に生きた人のまなざしは
また私の中にあるのだろうか
文明というバス路線を乗り継いできた私
今の場所からとらえられないものは何か
試しに聞き耳をたててみる
せせうぐ川の絶えまない音の中にあるもの
無尽に鳴き交わす鳥の交信にこめられた願い
おのれの掌に感ずる胸の鼓動
恒常と揺らぎと……

私が生まれ生きているもとの環境世界に背かず
響き合うことの意味をたずねるために
この身と心をひらいて杜の中へと解き放つ
はるか遠くの方で「始原に還れ」とあの人がか叫んでいる
まだ私の眼には映らない始原世界
もしも生きてたどりつけたなら
きっとこおどりしてうたい始めることだろう
そのときほんとうのまつりに酔いしれることができるのだ！

……その日の到来をうたがわず、私はきょうも人々にびわ
湖ホールのチラシを配りつつけているのです。

2010年2月12日

甲鳥川のほとり、ダイナマイト騒ぎの京大病院にて。

14期 サポーター 遠藤雅一

滋賀に暮らし始めて5年が過ぎようとしていました。
通勤の毎日で、ほとんど地元のことを知らずにいました。
そんな時に目に飛び込んできたサポーターの募集。
こういった取り組みには、いろんなことがひと段落してから、という思いもありましたが、
そんなことを言っていたら、時間がどんどん過ぎてしまう…
好きなことならできるかな、とりあえずやってみよう！
そう思って、思い切って申し込みました。

入ってみて、一番おもしろく感じたのは、みなさんの声がたくさん聞けることです。
好きなことに熱心な人と人とのつながりがあること、またそれを支えるスタッフの方のきめ細かいサポート(まさにサポーターのサポーター)が有難かったです。

働いている身分の今は、芸術鑑賞は息抜きのためのものです。
なので、まだまだ何かをサポートするほどに知識も経験も少ないですし、この一年を振り返ってみてもほとんど何もやれていない状況ですが、せめて身の回りにいる人への情報発信を心がけています。
反応のある人、いまいちな人。
今までとは違ったやりとりが始まった人。
知り合いの知り合い。
見えてくるそれぞれの生き方、生きがい、楽しみ。

私は生活の中にある大衆文化に興味があります。
日々を生きること。
その単調にも思える時間の積み重ねをより色どり豊かにしてくれる音楽や芸術。
誰かの伝えたいことを受け取り、吟味すること。
長く伝えられてきたものを受け取り、またそれらを守り伝えること。
一連の流れの中に身を置くことに親しむ機会を与えてくれたこのサポーター制度に感謝します。

また次の一年は、これまで縁のなかったジャンルにも一歩足をすすめてみようと思っています。

サポーターの活動報告

14期 川口 美保子

私の サポーターのスタート（11期）の年はサポーター取り纏めが御縁で 近所の人と8人が並んで「歌舞伎 中村勘三郎公演」を鑑賞しました。ある家族は親子3代を含む4人が鑑賞されました。サポーターとしての呼びかけがあったから「歌舞伎」に家族で行かれたと聞いた時は サポーターの重要性を感じました。

サポーターになって 4年目になります
びわ湖ホールに入るのも回数を重ね 特別な事でなくなりました
これまでも若い時・小さい時に 本物に接してほしいと願ってPRしていました。
今年は特にシアターメイツ登録を願っています。
この1年は 仕事で回る家庭でもパンフレットを渡しびわ湖ホールの話をすることが増えました。お孫さんが踊りや音楽に興味がありそうならメイト制度があり格安で公演会に行けますよ など。
青少年団体の役員にも団体行事の中に取り入れて頂きたい願いがあり 今迄から ずっと繰り返しパンフレットを届けています。特に会員登録更新時期にはシアターメイツも一緒に登録してで頂けたらと願ってます。
近い将来には年間行事の1つに組み込んで貰える事も願っています。

「森は生きている」ではお孫さんをやっとなシアターメイツに登録出来きたと聞き 念願の“若い時からびわ湖ホールへ”の第1歩が 出来たと思いました。家族3代で鑑賞されました。家族で1人が鑑賞するのも良いことですが 2代・3代が同じ公演を鑑賞できることの素晴らしさ 難しさを感じていますがサポーターがお役に立てたと思いました。

私は サポーターレポートを読ませて頂くことにより 鑑賞する感動の深さや幅 目線の違いを勉強させて貰っています。これは基礎講座と違い大変興味深く読んでいます。

プレトークマチネ ロビーコンサートも 「びわ湖ホールへの第1歩」としてパンフレットと一緒に届けて行きたいと思います。

“滋賀の音”

第14期 ^{こじま}小島 ^{さえこ}朗子

以前にサポーターに応募しましたが選考にもれ

やっとな昨年サポーターに採用して頂き、オペラなどの勉強に
夢を膨らませていました。

研修で色々な経験をさせて頂き、ホールの舞台裏などを見せて頂いた事は
本当に初めての経験でしたので色々な所で話題にさせて頂きました。

もう一つは、歌舞伎

歌舞伎を現代的な大きいホールで見ることは私の中では思いつかないですが
サポーターになれたから出来たことです。

サポーターになる以前は、えほんコンサート、フジ子・ヘミングさんなど
色々鑑賞させて頂きましたが、友人、知人にパンフレットを配りホールまで
につなげる難しさを実感しました。

今年は友人と一緒に参加、鑑賞出来るようにしたいと思います。

その為の一つに滋賀の里山、写真家・今森先生と一緒に映画作成をされた
ピアニスト加古 隆さんのコンサートを開いて滋賀以外の方に滋賀の自然と
音のコラボを音響効果の良いびわ湖ホールで是非開催して下さい。

“新しいチャレンジ”

第14期
小島 茂

何年か前に劇場サポーターに応募したら、選考にもれ、
やっと旧年サポーターに採用して頂きました。
元来、演劇や音楽の鑑賞が好きで、サポーターになれれば
色々な舞台に接することになると思っていたので、自分の
楽しみ方と、サポーターとして人々を誘うことのむずかしさを痛感。
自分の鑑賞としては 5月の「川久保 賜紀(グレイスリン)〜プレイ・ピアノ」
9月の「天翔ける風に」 10月の「歌劇「ルル」」の3回の研修を
体験して、それだけの公演は素晴らしいという機会にめぐ
りあえられ、とても参加出来たかなと思います。
活動をしていて感じるのは 滋賀県内に住んでいる人もあまり
「びわ湖ホール」に行かない人が多いので、一歩のきっかけ
作りから始めなければならぬことも感じられました。
今年一年も通じてく工事の関係で、自主研修も全然参加出来ず
申し訳なく思っておりながら、今自分で出来るサポーター活動も
もう一度考えてみようと思います。
公演については ソロコンサートに大ホールを使用するのは観客数
も含め、中ホール使用の頻度を多くする方向にしたいのではないかと
思います(音響効果は分かりませんが)。
公演者と観客が一体になれる舞台になればいいと。
びわ湖ホール周辺も含め、華やいてホールになることを望んでいます。

〈劇場サポーターの声〉

14期 高嶋とも子

◇サポーターの動機

60歳で定年退職後、健康維持のため「びわ湖一周ウォーキング」にトライしました。何回かびわ湖の畔を歩いているうちに自然の豊かさと美しさに魅了され、まるで滋賀県民になった思いで過ごしていました。だからびわ湖のために何かお手伝いできそうなものはないだろうかと思案していたある日、たまたまラジオで聴いたびわ湖ホールのサポーター募集に「これだ!」と飛び上がる気持ちで応募したのでした。。

私は大阪府在住ですが、知っての通り、大阪の文化振興は不毛の状態に陥っています。お隣の兵庫県にしろ京都府にしろ伝統と文化を重んじる施策をしており、また、京都のお隣の滋賀県もそうです。羨ましい気持ちを持っていました。

◇活動の概要

月ごとに送られてくるパンフレットは、主に私が通うカルチャー教室（3教室）でお配りしています。カルチャーセンターに通う人に共通なのは、いくつになってもいろいろなことに興味関心を持っているということです。音楽関係はもちろんのこと、年配の方は歌舞伎や狂言などにも強い関心を示されます。ここで発せられる言葉は”えっ、こんなに安いのか?”（大阪のおばちゃんたちはおカネに敏感ですから…）です。次に発せられるのが”もっと近かったらね〜”です。しかし私は自分の経験から、パンフレットを眺めるだけでも心が豊かになれることを知っています。だから、皆さんには”パンフレットでいいのがあったら持って帰ってね”といってお渡ししています。いつかきっとびわ湖ホールまで足を運んでくれるだろうと信じていますから。

もうひとつの活動として、自主交流会に参加できたことです。最初は皆勤を目指して参加していましたが、土・日に開催されることが多いので、なかなか達成は難しいことでした。参加した中に宝塚歌劇団の作品を鑑賞するのがありました。私の友に熱狂的な「ツカファン」がいるのですが、正直言ってなぜそんなに惹かれるのか私にはわからず、彼女を理解するためにも研修に参加したのです。それでも私には100%理解するまでには行かなかったのですが、印象に残る研修でした。いつも研修の講師をされるサポーターの方々には敬意を表します。

◇一年の感想とこれからの課題

この一年間、お手伝いできたというよりは（申し訳ないけれど、）私の利益の方が大きかったというのが感想です。舞台探検や振り付けの練習など普段は見ることができないことを見せていただいたり、マニヤックな研修で楽しく学ばせていただきました。来年度こそは皆勤を狙って研修会に参加したいです。

エントランスから眼に飛び込んでくる湖のあるホールは唯一無二です。びわ湖ホールのロケーションは素晴らしい。この美しさを知ってもらえれば遠くからでも集客できると思っています。大阪からいかにして逢坂の関を超えさせることができかが私の課題です。私の身の回りでは少しずつびわ湖ホールというネームが浸透しつつあります。

最近、新聞の音楽広告や他の雑誌でびわ湖ホールの公演が載っているとホッとします。JRの車内広告（モニター画面）にもびわ湖ホールのPRがあればいいなと思っています。

「劇場サポーターの声」

殿浦俊明

21年度からサポーター活動をはじめ、自主交流会に数回参加し、「松竹歌舞伎」、「アンサンブル・ラロ」「歌劇ルル」を見せていただきました。

歌舞伎も室内楽もオペラも初めて見るものばかりで、「歌劇ルル」はゲネプロも見学し、とてもよい経験をさせていただいたと思っております。

その他では「ピナバウシュ・フルムーン」「ピーターコンヴィチュニー講演会」、「ローザス・ツァイトウング」に友人、知人を誘って行きましたが、どれもよい公演で評判もよかったです。

はじめは「やるからにはびわ湖ホールのために何かしなくてはいけない！」という気負いもありましたが、劇場の方々のお話を聞く中で「まず自分がびわ湖ホールを好きになればいいんだ」と思い至りました。

来年度もサポーターのみなさんとの出会いや素晴らしい公演との出会いをとにかく楽しんで続けていけばよいかなと思っていますので、よろしくお願いします。

2005 年秋に会社を退職し、第二の人生は自身の楽しみ人生にしようと企て、所帯を持って25年間封印していた好きな音楽鑑賞をその楽しみにあてようと思いました。その楽しみを高めるために、予てから興味を持っていたびわ湖ホール劇場サポーターに11期から参加しました。そのサポーター活動も2期目に入り丸4年になりました。今、私はサポーター活動で五つの得をしたと感じています。(いや、いや 実際は五つ以上の得をしているでしょうネ) その五つの得をご紹介します。私がサポーター活動で感じた五得(五徳)とは、儒教精神の「五常の徳」ではなく、ガスコンロの上にある鍋やヤカンをのせるあの五徳です。そのまま使ったり、ひっくり返して使ったり、何かとくっつけて使ったりと工夫次第でお料理の火加減から物置までに幅広く活用できるあれですよ。

① 一得(一徳) 「知」 舞台芸術が知れること。

ホールが開催してくださるサポーター研修・基礎講座(それぞれ年三回程度はあります)が充実しています。舞台芸術・公演演目の舞台裏(ホールの舞台裏まで見れます)、見どころ、聴きどころなどをきめ細かく講座、見学等でスキルアップしてくださいまし、自主公演のご招待鑑賞もあります。ムチャクチャ得した気持ちになります。事実、私自身の好きなレコード音楽の知識でも格段に向上しています。

② 二得(二徳) 「知」 知人大勢懐入。お友達がいっぱいできます。ほんと山のようによくなりますよ！(笑)

サポーターによる(ホール主催でなく)自主交流会が定期的で開催され、サポーター同士の気楽な情報や意見の交換場所を提供くださっています。舞台芸術のレクチャーだけでなくハイキングあり、酒蔵見学あり、お祭り見学となんでもありますし、どなたでも情報発信できます。人見しりする私でもちょっとした参加でいっぱいお友達ができました。

③ 三得(三徳) 「仁」 相手の気持ちをおしはかる優しい心が芽生えます。

サポーター活動で大切な観客創造。その手段は家族・知人・ご近所等の方々へ開催公演をチラシで紹介して、一枚でもチケットをご購入くださるようにすることです。そのPR活動は相手の心理(気持ち)・懐具合をおもんばかってお話をすすめる。必ずしも安価でないチケットなのですから購入してもらえず、やんわりと遠回しに断られることもたびたびあります。その相手の気持ちを汲む優しい心(笑)。社会生活での基本的道徳心が育まれます。

④ 四得(四徳) 「安」 公演情報等が先取りできてチケット購入等で安心できます。

自主公演のチケットはサポーター取りまとめ制度があって、友の会・一般発売より早くチケット申込が可能です。(制約条件等はありませんが) 人気公演のチケット購入忘れ等がなくなり確実にGETでき安心です。

⑤ 五得(五徳) 「礼」 サポーターに登録していただいて感謝です。

と言うのは、昨年市内にレコード音楽を楽しめるリスニングルームがオープンしました。そこのアルバイトスタッフ募集に応募して、びわ湖ホール劇場サポーターをさせていただいているとの自己PRをしたところ、それが功を奏してみごと採用を勝ち取りました。第二の人生で好きなことにたずさわれる幸せ。正に劇場サポーター活動の賜物です。感謝・感謝・感謝です。

以上 劇場サポーター活動ってすごいでしょ(笑)！

劇場サポーター活動記録

第 14 期 吉田遊介

第 14 期劇場サポーターとして初めて参加しました。舞台芸術の基礎講座や舞台研修など、サポーターとして活動するために理解を深める催しがいくつもあり、充実していたと思います。分科会や交流会にほとんど参加できなかったのが、来年度からは時間を見つけて積極的に参加したいと考えています。

サポーター活動としては、公演情報のチラシを書店に設置してもらい、PR できるよう努めてきました。びわ湖ホールは、琵琶湖の眺めが素晴らしく、文化や芸術を親しむのに格好のスポットだと思っています。設備や環境などから、びわ湖ホールは唯一無二の存在であると考えていますので今後も PR 活動していき、また自身の理解も深化させていこうと思います。

びわ湖ホールについての関心は地元にいるということはもちろんですが、大学でびわ湖ホール元館長の講義を聴講し、より強く興味を持ちました。芸術文化とはなにか、地域の文化を根絶やしにしてはならないことなど、文化政策を考えるうえで、びわ湖ホールは良い“テキスト”でした。

特に近年はますます進む国・地方自治体の緊縮財政により、芸術文化への眼差しも厳しいものがあると感じます。昨年実施された「事業仕分け」が良い例です。芸術や文化といったものは、医療、社会保障のように緊急性や重要性の高い位置にくるものなのだろうか。また、目に見える成果・効果を計ることが難しい分野です。そのなかで劇場サポーターとして、一観客として、びわ湖ホールを通して地域における芸術文化を考えるために、劇場サポーターに参加したことは良い機会になりました。

舞台芸術がエリートのみ占有される時代は終わり、現代はいかなる人々にも享受できる時代です。しかし、劇場で舞台芸術を鑑賞するのは一部の人間だけだというイメージは色濃く感じます。確かに、オペラやクラシックなどは難しく、地元の人でも足が遠のいている現状はあると思います。びわ湖ホールでは、それほど高価なチケットを購入しなくても楽しめる公演があるよ、と足が遠のいている人々のかけ橋になる存在が劇場サポーターなのだと 1 年間かけて実感しました。

これからは、びわ湖ホールの劇場サポーターとして出来ること、地域に芸術文化を根ざす可能性を模索しながら活動できたらと思います。

発行 財団法人びわ湖ホール

発行年月 平成 22 年 3 月

〒520-0806 大津市打出浜 15-1

TEL 077-523-7133 FAX 077-523-7147

URL <http://www.biwako-hall.or.jp/>
